

漁業振興について

問

- 一・上灘漁協の煮干し加工場の改築の進捗状況はどうか。
- 二・その解体時期・解体費用・改築時期・改築費について問う。
- 三・補助金はどうなっているか。
- 四・上灘漁港及び上灘川河口の浚渫(しゅんせつ)計画はどうなっているか。

答

中村市長

一・平成十八年度から国からの支援の可能性を模索するとともに、事業化に向けて体制の整備、周辺住民の施行同意の可能性を検討してきたが、ようやくその見通しが立ってきた。先般、国の支援を受けるべく、伊予市上灘地区活性化計画を策定して市のホーム

若松 孝行 議員



ページで公表するとともに、国へ計画書を提出し、その審査を受けているところである。

国からの支援は、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金を活用することになる。

二・活性化計画の承認があれば、早速、上灘漁業協同組合において実施計画を行い、平成二十一年度から現施設の解体、建屋の新築工事にかかることにしており、機材等の設備工事は、平成二十二年度の本格的な漁期前に完成を予定している。

具体的な解体時期・改築規模・費用については、イワシ・シラスの漁期は六月から九月頃で、特に生産額の大半を占めるシラスについては、七月・八月が最盛期とされているので、この時期以降に解体工事に着手したい。今後、国とも調整を行いたい。現段階での概算費用については、既存施設の解体費用が約九千万円、設備費用を含めた建物新築工事費は、約六億八千万円を想定しており、建物の規模は約三千五百平方メートルと考えている。

三・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金は、実施設計、新築工事費等に要する経費の二分の一以内が限度である。

答

産業建設部長

四・漁港の浚渫は、昭和六十六年度、平成六年度の二回実施している。平成六年度には、四千立方メートルの土砂を浚渫した。以来多量の土砂が堆積し、漁船の出入港に支障が生じているため、対処方の要望を受けている。浚渫計画の策定に必要な堆積土砂量のデータ収集の深淺測量を実施する予定である。浚渫土砂の処理については、法に基づいて、適切に処理を行う。上灘漁協や関係機関とも十分協議し、できる限り早い時期に実施したい。

上灘川河口付近の土砂は、早急に浚渫を行う必要がある中で、地質調査後、高野川漁港区域に土砂を搬出し、海岸の保全を図りたいと考えている。



土砂が堆積した上灘川河口

双海地区中学校統廃合問題について

問

次の五点について問う。

- 一・中学校の適正配置をどう考えるか。
- 二・進捗状況
- 三・跡地利用
- 四・統合先と統合時期
- 五・通学方法

答

上田教育長

一・学校規模適正配置については、中学校では一学級の適正は生徒数が単式学級で四十人以下である。現在市内の小・中学校で学年一学級の小規模校は南山崎小学校と中山・双海地区の全小・中学校である。

県内では、学校配置について行政が主導で進めている市町もあるが、教育委員会としては、まず地域関係者で十分検討してもらい、中学校については、中山・双海地区に将来にわたって存続させたい。

二・平成十九年十月に下灘中学校統合検討委員会を立ち上げ、統合先・時期・通学方法などについて検討している。平成二十年度には、双海地区全体の問題として捉え、双海地

区中学校統合検討委員会を立ち上げ協議していきたい。

なお、メンバーは、下灘地区の構成と同様で老人会・区長会、保育所・小学校・中学校のPTAと先生を含む地域住民である。この会は、下灘地区での検討内容の充実を図り、双海町での検討課題に反映させ、地域住民への説明会等を実施し、理解を求めるところである。

答

教育委員会 事務局長

二・検討委員会第一回を十一月十九日、第二回を一月三十日、第三回を二月十九日、第四回を三月中旬に開きたい。

四・第二回検討委員会で上灘中学校と意見がまとまった。

平成二十二年四月、二十三年四月の両方の意見があり、合意には至っていない。第四回で検討したい。

五・バスとかいろいろ意見が出たが、この問題は正式な議題として上がっておらず、現在は未定である。